

# 図書館だより



no.240

2023(令和5)年3月29日発行

編集・発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

TEL 024-535-3218

Fax 024-536-4787

<https://www.library.fcs.ed.jp/>



## イベント報告

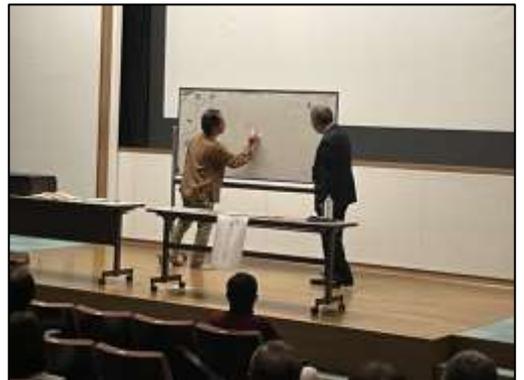
### 『はしれディーゼル機関車デーデ』講演会を開催しました。

令和5年2月25日(土)に、東日本大震災直後に運行された臨時の貨物列車をモデルとした、絵本『はしれディーゼル機関車デーデ』の作者であるすとう あさえさんと鈴木 まもるさんをお招きし、～東日本大震災から12年福島の子どもたちに伝えたい絵本～『はしれディーゼル機関車デーデ』を開催しました。

講演会では、まずすとう あさえさんより『はしれディーゼル機関車デーデ』を朗読いただきました。そして、「デーデとともに12年～いま、私が思うこと」と題して、取材時の逸話などをお話いただきました。

その後、鈴木 まもるさんより「絵本と鳥の巣とデーデのこと」と題して、デーデ誕生までの経緯や絵本のつくり方、ライフワークである鳥の巣のことなどをお話いただきました。

当日は117名の方にご来場いただき、日本貨物鉄道株式会社の皆様など、多数の関係者の方々にもご来場いただきました。また、開催にあたっては『はしれディーゼル機関車デーデ』の出版元である童心社および日本国際児童図書評議会(JBBY)のご支援・ご協力をいただきました。



#### <『はしれディーゼル機関車デーデ』について>

2011年(平成23)年の東日本大震災により、東北本線は長期間不通になりました。『はしれディーゼル機関車デーデ』は、東北へ石油等の燃料を届けるため、横浜市から磐越西線経由で臨時列車を運転するために全国から集められたDD51形ディーゼル機関車をテーマとした絵本です。

## 展示のご案内

### <企画展示> 『福島の火山と防災～吾妻山噴火から130年～』

今年で1893年(明治26年)の吾妻山噴火から130年です。身近な火山である吾妻山について、噴火の歴史、自然や防災にもふれながら、当館所蔵資料を展示します。  
期間:4月5日(水)まで 場所:企画展示コーナー



### 「松居直と『こどものとも』から生まれた作家たち」

児童文学作家で、月刊物語絵本「こどものとも」の初代編集長の松居直さんが、2022年11月に亡くなりました。「こどものとも」からは「だるまちゃん」シリーズや、『ぐりとぐら』、『おおきなかぶ』など、たくさんのお名作絵本が誕生しています。

期間:4月7日(金)～5月31日(水) 場所:企画展示コーナー

### 資料の返却はお済みですか？

年度末・新年度の入学・卒業・就職・転勤などに伴う転居時に、これまでお借りになっていた資料の返却漏れや紛失が毎年発生しています。借りていた資料の返却をお忘れなよう、お気を付けください。

※閉館時間後・休館日にご返却の際は、図書館正面玄関横の「返却ポスト」をご利用ください。

※福島県立図書館で借りた資料を、県内の一部の図書館・公民館図書室で返却することも可能です。

(福島市立図書館など、返却できない図書館・室もあります。詳しくは当館ホームページでご確認ください)

# 新着案内

各分野の担当者が選んだ、お薦めの新着資料をご紹介します。

## 人文・自然・社会

『いい絵だな』 伊野 孝行／著、南 伸坊／著  
集英社インターナショナル 2022.10 720.4/イ 22X  
イラストレーション（略してイラスト）とアート作品は何が違うのか、と思ったことはありませんか？現代芸術の絵はなぜ抽象的でよくわからないのか、とか、シュルレアリスムとはいったいどういうことなのか、とか、いわゆる「ヘタうま」な絵もアートといえるのか、とか。もはや絵をどう見たらいいのかかわからないと思ったことはありませんか？

本書は、イラストレーターである著者ふたりが、専門的な解説書とは違った角度から、自分なりに絵を楽しむコツを気楽に教えてくれます。

『切手デザイナーの仕事』 間部 香代／著  
グラフィック社 2022.10 693.8/切 22X

日本で1年に発行される約40件の特殊切手、そのデザインを全て手掛けるのが、日本郵便の切手・葉書室に勤める8人のデザイナーたちです。本書は8人ひとりひとりに取材し、経歴も得意分野も様々な彼らが、どのように日本の切手を生み出しているのかを綴ります。たった数センチ四方の小さな切手へ真摯に向き合う彼らの仕事ぶりに、心が温かくなります。

切手なんか久しく使っていないという方にも、郵趣家の方にもおすすめ。もしかしたら「あの切手、この方のデザインだったのか！」という発見があるかもしれません。

『バウムクーヘンの文化史 パン・料理・菓子、越境する銘菓』 三浦 裕子／著 青弓社 2022.12 383.8/ミ 22Z

日本では、第一次世界大戦期にドイツ人菓子職人カール・ユーハイムによって持ち込まれ、現在まで独自の発展を遂げてきた洋菓子・バウムクーヘン。本書では、ドイツの歴史的な文献から当時のレシピを解読し、パン、料理、菓子の分野をさまよいながら作り続けられてきたバウムクーヘンの歴史を紐解いています。現在のバウムクーヘンを改めて味わいたくなるかもしれません。

## 児童・児童図書研究

『クマのプーさんのむかしむかし すべてがはじまるまえのお話』 ジェーン・リオードン／文 マーク・バージェス／絵 尾崎愛子／訳 文化出版局 2022.6 933/リジ

世界中で愛されている『クマのプーさん』、そのむかしむかしのお話があることを知っていますか？

原作『クマのプーさん』の公式に認められた過去編である本著は、A・A・ミルンの作風はもちろんのこと、画風も原作を意識したものになっています。プーさんと仲間た

ちとの出会いや、森にやってくるまでのエピソードが鮮やかな挿し絵と共に描かれ、プーさんを知っている人はもちろんのこと、初めて読む人でも楽しめる内容です。また、全ページにふりがながついていて、どなたでも読みやすくなっています。

## 雑誌・新聞

この時期はお出かけ日和が続く時期です。最近発行の雑誌から、桜に関する特集があるものをご紹介します。

『サライ』 Z051/S16/ 2023年4月号  
(第35巻第4号, 通巻695号)  
特集 「大特集 花見列車の旅」

『旅の手帖』 Z291/T1/ 2023年4月号  
(第47巻第4号, 通巻612号)  
特集 「ローカル線で桜旅」

『旅行読売』 Z689/R1/ 2023年4月号  
(通巻第941号)  
特集 「ローカル線で桜の咲く駅へ」

## 地域

『IWAKI FC DIGEST 2022 J3優勝・J2昇格記念』 福島民友新聞社 2022.12 L783.4/F3/2

2022年シーズンにサッカーJ3リーグで優勝し、J2リーグ昇格を決めた「いわきFC」。2月からは2023年シーズンも始まり、いわきFCの新たな挑戦に期待している方も多いのではないでしょうか。本書では、そんないわきFCの2022年シーズン・全34試合を、豊富な写真と選評で振り返ることができます。その他、2022年シーズンのメンバーの顔写真やチームの順位表、2023年シーズンのJ2クラブチーム一覧なども掲載されています。今シーズンのいわきFCの戦いが、より楽しみになる一冊です。

『会津の風光—永遠なる一瞬—』 竹島 善一／写真・文 国書刊行会 2022.11 L748/T10/3

茅葺屋根の雪下ろし、葉タバコの栽培とともにする生活、ダムに沈んだ村…時代の移り変わりとともに、今はもう見ることができなくなっていった雪深い会津の農村のさりげない日常の一瞬の風景を写しています。昭和40年代後半から60年代初めに撮られたモノクロ写真の中には、下郷町の頭屋祭り、旧伊南村の歌舞伎舞台といった当時の祭りや習俗の様子も。

会津に魅せられた、うなぎ蒲焼き店の元店主が長年、会津を訪れては撮影してきた写真と思いがつまった写真集です。